

当院における超音波内視鏡下組織採取(EUS-TA)の現状と課題について

1. 観察研究について

九州大学病院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。患者さんの生活習慣や検査結果、疾病への治療の効果などの情報を集め、これを詳しく調べて医療の改善につながる新たな知見を発見する研究を「観察研究」といいます。その一つとして、九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科では、現在超音波内視鏡 (endoscopic ultrasonography; EUS) を用いて腹腔内の病変に対して経消化管的に穿刺する超音波内視鏡内視鏡下組織採取(EUS-TA)を行った患者さんを対象として、EUS-TA の臨床成績を検討する「観察研究」を行っています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2027年3月30日までです。

2. 研究の目的や意義について

以前より、腹腔内の病変に対して診断をつける目的で EUS-TA が幅広く行われています。近年、EUS-TA の有用性や安全性は多く報告されています。しかし、ある一定の頻度で診断が困難な症例や様々な偶発症も報告されております。

そこで、我々は、当院において、EUS-TA の現状調査を行い、手技の詳細を検討するだけでなく、診断に難渋した症例や合併症症例への対応について探索することで、今後の医療において適切な治療の方法や適応について全国に発信することが可能になると考えています。

3. 研究の対象者について

九州大学病院肝臓・膵臓・胆道内科において、2017年1月1日から2023年2月28日の間に当院でEUS-TAを受けられた方1200例を対象にします。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

4. 研究の方法について

この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得します。取得した情報の関係性を分析し、EUS-TA の診断率や処置難渋・偶発症症例への対応法を明らかにします。

[取得する情報]

年齢、性別、原疾患、原疾患の治療内容、症状、病理診断、処置日・処置内容、画像所見(レントゲン, US, CT, MRI, PET-CT, SRS, EUS/EUS-TA, ERCP)、診断率、手技成功率、合併症、臨床経過・生存期間、再処置の有無と内容、血液検査結果 (TP, Alb, T-bil, D-bil, AST, ALT, LDH, ALP, γ -GTP, AMY, リパーゼ, BUN, Cre, Na, K, Cl, CRP, WBC, RBC, Hb, Hct, Plt, PT, APTT, D ダイマー、FDP, CEA, CA19-9)

5. 個人情報の取扱いについて

研究対象者のカルテの情報をこの研究に使用する際には、研究対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。研究対象者と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを

設定し、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野内のインターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、研究対象者が特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野・教授・小川 佳宏の責任の下、厳重な管理を行います。

ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

6. 試料や情報の保管等について

[情報について]

この研究において得られた研究対象者のカルテの情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野において同分野教授・小川 佳宏の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られた研究対象者の情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えています。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

7. 利益相反について

九州大学では、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのため資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかという疑問が生じる事があります。そのような問題に対して九州大学では「九州大学利益相反マネジメント要項」及び「医系地区部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項」を定めています。本研究はこれらの要項に基づいて実施されます。

本研究に関する必要な経費は講座寄付金であり、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

利益相反についてもっと詳しくお知りになりたい方は、下記の窓口へお問い合わせください。

利益相反マネジメント委員会

(窓口：九州大学病院 ARO 次世代医療センター 電話：092-642-5082)

8. 研究に関する情報の開示について

この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

9. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所	九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科
研究責任者	九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 助教 藤森 尚
研究分担者	九州大学大学院医学研究院病態制御内科学 教授 小川 佳宏 九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 助教 植田 圭二郎 九州大学病院 光学医療診療部 助教 蓑田 洋介 九州大学大学院医学系学府病態制御内科学 大学院生 大野 彰久 九州大学大学院医学系学府病態制御内科学 大学院生 寺松 克人 九州大学大学院医学系学府病態制御内科学 大学院生 松本 一秀 九州大学大学院医学系学府病態制御内科学 大学院生 村上 正俊 九州大学大学院医学系学府病態制御内科学 大学院生 木村 勇祐 九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 医員 木村 弥成子 九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 医員 小森 康寛 九州大学病院 光学医療診療部 医員 長友 周三郎

10. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局 担当者：九州大学大学院医学系学府 病態制御内科学 大学院生 大野 彰久
(相談窓口) 連絡先：〔TEL〕 092-642-5285 (内線 5285)
〔FAX〕 092-642-5287
メールアドレス：ohno.akihsa.048@m.kyushu-u.ac.jp